

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://jsohkink.umin.jp>

第61回近畿地方会総会にあたってのご挨拶

地方会会長 車谷典男



会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。地方会活動の近況についてご報告させていただきます。

去る5月中旬に松山で開催されました日本産業衛生学会で、近畿地方会にとってとりわけ重要なことが2つ決定されました。

一つは近畿選出の圓藤吟史理事が、日本産業衛生学会の理事長に選出されたことです。会員の皆様方もご承知のように、圓藤先生は近畿地方会を強いリーダーシップで先導されてこられているのみならず、日本産業衛生学会の理事として学会の屋台骨を支えてこられた先生です。会員一同、公益社団法人化された初代理事長として、産業衛生に関する学術の振興に見識と実力を発揮されることを大いに期待しています。

もう一つは、「2015年の第88回日本産業衛生学会を近畿地方会が主催」することの正式決定です。これを受けて、6月15日の地方会総会に先立ち開催した幹事会と代議員会で、①会期は2015年5月13日(水)から同17日(日)とすること(学会本体は14日から16日の3日間)、②コングレコンベンションセンター(大阪駅北に5月に開業したばかりのグランフロント地下)を主会場とすること、③企画運営委員長として現近畿地方会会長の車谷と、副運営企画委員長として山田誠二理事と久保田昌詞理事の2名を担当させること、④そして企画運営委員会WG(仮称)を10余名で立ち上げることが承認されました。末広がりの8が二つ並んだ縁起の良い(非科学的ですが)学会を、近畿地方会の会員が一

丸となった英知と努力の結晶として、成功させたいと願っています。「第88回日本産業衛生学会の成功を!」です。もう2年後に迫った話で、準備を急がなくてはなりません。

本年度の地方会活動も盛り沢山です。その都度の近畿地方会ニュースやホームページをご覧ください、日頃の産業保健の研究と活動に生かしていただければと思います。なかでも、本年11月2日(土)に京都大学医学部芝蘭会館にて開催される第53回近畿産業衛生学会は、地方会の重要な学術事業です。中山健夫学会長と森口次郎事務局長を中心に、周到な準備と魅力的な特別プログラムの企画が進められています。一人でも多くの会員の皆様が、近畿地方会優秀演題賞の獲得を目指して参加されることを願っています。

今後とも、会員皆様の地方会活動への主体的な参加を引き続きよろしく願いいたします。



(シンポジウム会場)

平成25年度総会議事録

日時 2013年6月15日(土) 13:10～13:50
場所 大阪市立大学医学部学舎4階大講義室

1. 開会

2. 地方会長の挨拶

3. 昨年度物故会員の報告と黙祷

中野 硯夫 (なかの ひろを) 氏
吉中 光男 (よしなか みつお) 氏
谷口 珪二 (たにぐち けいじ) 氏
東田 敏夫 (ひがしだ としお) 氏
沖中奈美子 (おきなか なみこ) 氏

4. 黙祷

5. 議長選出

圓藤陽子会員 (関西労災病院) を選出

6. 総会成立の確認

5月15日現在の地方会員数1,345名のうち出席者70名 (委任状429名)。会員の5分の1以上の出席により総会は成立 (地方会会則第18条)

7. 議事録署名人の選出

上原新一郎会員 (大阪市立大学)
富岡 公子会員 (奈良県立医科大学)

8. 議事

(1)平成24年度近畿地方会事業報告 (車谷会長)

地方会ニュース第94号 (本年5月15日発行) の3頁と4頁に掲載された資料に基づいて説明があり、異議無く承認された。

(2)平成24年度決算報告 (清田副会長)

地方会ニュース第94号2頁に掲載された収支報告に基づき説明があり、異議無く承認された。

(3)平成24年度監査報告 (植本寿満枝前監事)

廣田昌利監事 (同25年4月9日) と植本寿満枝監事 (平成25年4月15日) が、地方会事務局 (奈良医大) で監査を行い、決算書類にかかわる通帳など証拠書類が適切に管理され、執行が適切に行われていることを確認した旨の報告があった。

(4)平成25年度事業計画案 (車谷会長)

地方会ニュース第94号5頁に掲載された資料に基づいて説明があり、異議無く承認された。

(5)平成25年度予算案 (清田副会長)

地方会ニュース第94号2頁の予算 (案) に基づき、日本産業衛生学会の公益法人化に伴い「広報・通信費」としていた会費を「地方会活動費」と名称を再度改めるとの説明があり、異議無く承認された。

(6)第53回近畿産業衛生学会の進捗状況

中山健夫会長から2013年11月2日(土)、京都大学医学部芝蘭会館 (京都市) で開催する。「病気をもち働く人の支援に向けて」をテーマとし、懇親会も予定している。演題申込や抄録の提出はメール添付を中心とする。第53回近畿産業衛生学会若手奨励賞を設けるとの報告があった。

(7)その他

①第88回日本産業衛生学会の主催について

日時: 2015年5月13日(水)～5月17日(日)
主会場: コングレコンベンションセンター
車谷現地方会長が企画運営委員長を務め、幹事を中心とした企画運営委員会、企画運営WG (仮称) 等を組織して開催準備に入るとの報告があった。

②選挙管理委員会委員選任について

車谷会長から、「選挙の前年度から選挙管理委員会を設置する」提案と、半数改選の慣例に従い上原新一郎・圓藤陽子・豊川彰博・平田真以子各氏の再任と、竹下達也・丸山総一郎・原田昌子各氏の新任の、計7名の委員提案があり、承認された。

9. 議長解任

10. 閉会

2013年
4月23日
新発売!

SOYJOY ピーナッツ



Otsuka 大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40
TEL: 06-6441-6532

まるごと大豆と
ごろっとピーナッツの食べごたえ

商品特長

- ごろっとピーナッツのしっかりとした食べごたえ。ドライフルーツを使わない、すっきりした甘さのまるごと *大豆バー *うす皮はのぞく
- 小腹がすいた時こそ、栄養成分豊富な大豆バー。どこでも手軽に美味しくスマートに
- 全13種類のラインアップ

平成24年度近畿地方会収支報告および平成25年度予算 平成25年6月15日

1. 収入の部

科 目	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	摘 要
(1) 会費収入	2,200,000	2,191,000	2,200,000	
広報・通信費収入（平成24年度のみ）	1,900,000	1,550,000	0	2,000円×775人
特別会員会費収入	300,000	641,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
地方会活動費（平成25年度から）			1,900,000	2,000円×950人
(2) 助成金収入	1,890,000	2,137,300	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	2,031,000	1,890,000	1,500円×1,354人
本部選挙交付金	0	106,300	0	100円×1,063人
(3) 事業収入	180,000	120,000	180,000	
広告料収入	180,000	120,000	180,000	
(4) その他収入	400,528	400,727	500	
受取利息	500	672	500	
役員選挙積立金より	400,028	400,055	0	
当期収入合計	4,670,528	4,849,027	4,270,500	
前期繰越収支差額	3,899,487	3,899,487	3,411,856	
収入合計	8,570,015	8,748,514	7,682,356	

2. 支出の部

科 目	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	摘 要
(1) 事業費	3,450,000	2,787,659	3,450,000	
①機関誌費	1,300,000	1,093,155	1,300,000	
印刷費	500,000	503,698	500,000	
広報活動費	150,000	2,300	150,000	
通信運搬費	650,000	587,157	650,000	
②助成金支出	1,400,000	1,050,000	1,400,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	500,000	500,000	500,000	
産業医部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業看護部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業技術部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
研究会補助金	300,000	100,000	300,000	50,000円×2部会
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	644,504	750,000	
地方会総会開催費	500,000	474,504	500,000	
学術担当費	250,000	170,000	250,000	
(2) 管理費	1,920,000	1,548,830	1,370,000	
①運営費	1,320,000	1,024,225	520,000	
幹事、代議員会費	120,000	113,005	120,000	
広報渉外費	300,000	277,500	300,000	HP関連
役員改選費	800,000	570,420	0	
運営雑費	100,000	63,300	100,000	幹事会交通費
②事務費	600,000	524,605	850,000	
事務局費合計	500,000	500,000	500,000	
備品	0	0	250,000	PC更新費用
消耗品費	100,000	24,605	100,000	
(3) その他支出	0	0	400,000	
役員改選積立金支出	0	0	400,000	26年度実施予定の積立金
(4) 事業積立金	1,000,000	1,000,169	1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金	500,000	500,085	500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金	500,000	500,084	500,000	
(5) 予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計	6,870,000	5,336,658	6,720,000	
当期収支差額	-2,199,472	-487,631	-2,449,500	
次期繰越収支差額	1,700,015	3,411,856	962,356	
支出合計	8,570,015	8,748,514	7,682,356	

財産目録 (1)ノートパソコン・デル1台(2006/10/11購入) (2)FAX(0744-22-1801)Panasonic 1台(2009年7月購入)
24年度の会計年度は平成24年3月1日から平成25年2月28日まで。

「産業衛生のUnmet Need～特に 中小企業の労働安全衛生における 現状と対策～」を拝聴して

一般財団法人
近畿健康管理センター

木村 隆



まず、本年度が第12次労働災害防止計画の初年度であり、その中で課題とされている中小規模事業場をテーマにいただいた久保田近畿地方会学術担当理事に敬意を表します。

従業員数50人未満の事業場は財政基盤が脆弱なため、様々な安全衛生上の施策が打たれています。安全面について形部先生は、中災防受託事業「たんぼぼ計画」の経験から、指導先の確保や、安全管理体制や人材育成が経営者の理解を深めないと進まないことを指摘されたが、残念ながら本事業は終了となっています。衛生面では、須藤先生は「総合健保」として保健指導の経験から、事業場から訪問を断られることや労働者が現場から離れられないことなど、面談実現の難しさ、メンタル面が特定保健指導の枠組みでは対応が難しいことを、また益江先生は「地域産業保健センター事業」を通じて、事業の周知度が低いこと、相談が少ないこと、事業場の実態把握の困難さ、予算やマンパワー不足を指摘された。仲田先生は奈良「産業保健推進センター」が受託した「メンタルヘルス対策支援センター事業」での課題として、本事業の周知不足、事例対応はできないこと、単年度事業であることや予算変動が大きいことから継続的運営が出来ないことを指摘された。藤森先生は、以上の指摘に加え、事業が別個に運営されていることで、対象もわかりづらく、相談側にも混乱を招いていることを指摘され、解決策として、日本医師会産業保健委員会の中間答申で、地域産業保健センター事業、産業保健推進センター事業、メンタルヘルス対策支援センター事業の3事業が労働者健康福祉機構を運営主体として一括運営される構想を報告された。運営主体の真剣さに不安もありますが、小規模事業場の労働安全衛生管理が課題ごとではなく一元化して、他職種連携で継続的に支援する構想で、期待できます。今後、専門性の高い産業衛生学会会員の参加が法的に促されると共に、会員の小規模事業場における安全衛生の理解と支援を促進するシンポジウムであったことを信じております。

第61回近畿地方会総会特別講演 「第12次労働災害防止計画にみら れる産業衛生の課題」を拝聴して

みずほフィナンシャルグループ
大阪健康開発センター
/大阪大・医・総合地域医療学

木曾 真一



本年より、みずほFG大阪健康開発センターへ着任しました木曾と申します。長らくいました大学(まだ兼任しておりますが)とは違う新しい産業衛生のフィールドで頑張る所存ですので、今後ともどうぞよろしく願います。6月15日に開催されました近畿地方会総会特別講演、大阪労働基準局 石井真人主任労働官の講演を拝聴しましたので報告させていただきます。

「労働災害防止計画」は、労働災害を減少させるために国が重点的に取り組む事項を定めた中期計画で、5年ごとに厚生労働大臣が策定します。第12次計画の期間は平成25年度から29年度になります。本計画の目的は、「働くことで生命が脅かされたり、健康が損なわれるようなことは、本来あってはならない」であり、「誰もが安心して健康に働くことができる社会」を目指しています。計画の全体目標としては、平成29年までに労働災害による死亡者数を15%以上減少(平成24年比)、死傷者数(休業4日以上)を15%以上減少(平成24年比)としています。

六つの重点施策として、1.労働災害、業務上疾病発生状況の変化に合わせた対策の重点化 2.行政、労働災害防止団体、業界団体等の連携・協働による労働災害の防止の取り組み 3.社会、企業、労働者の安全・健康に対する意識改革の促進 4.科学的根拠、国際動向を踏まえた施策推進 5.発注者、製造業、設備等の管理者による取組強化 6.東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故を受けた対応、があげられています。

当日の特別講演では、重点施策1の「労働災害、業務上疾病発生状況の変化に合わせた対策の重点化」の特に、メンタルヘルス対策、過重労働対策、(印刷業における胆管がんで大きな問題となった)化学物質による健康障害防止対策、腰痛・熱中症対策、受動喫煙防止対策についての現状と課題の説明を受けました。

今回のポイントとしては、1.重点対策ごとに数値目標を設定 2.第三次産業を最重要業種に位置づけ 3.死亡災害に対する重点を絞った取組を実施、があげられています。

労働災害は長期的には減少していますが、第三次産業では増加しています。労働災害防止を図るためには、本計画を熟知し、国の取り組みに対応して、事業者、労働者をはじめとする関係者が自ら安全衛生対策を推進することが重要であると感じました。

第86回産業衛生学会印象記

参天製薬(株)滋賀工場

中田 ゆかり



平成25年5月14日(火)～17日(金)の日程で、『産業保健における可能性の追求』をメインテーマに第86回日本産業衛生学会が愛媛県松山市のひめぎんホールで開催されました。私も『「産業保健師」に関する過去10年間の海外文献レビュー』と題してポスター発表させていただきましたが、座長の先生から検索式に関する貴重なアドバイスをいただくことができ、国内外の海外文献を通してさらに日本の産業看護活動について分析を深めていきたいと感じた貴重な体験でした。

今回の内容はメンタルヘルスの第一次予防、睡眠障害、産業保健と地域保健の連携や他職種との協働、研究に関するノウハウ、がんやメンタルヘルス不調者への就業・復職支援、たばこなどの有害物質曝露問題など非常に多方面からの視点で企画されていたという印象を受けました。中でも睡眠障害に関するテーマが非常に多く取り上げられており、現在私が職場で展開中の睡眠に関する情報がとても多く得られたことが、何よりとてもうれしく感じました。

どの内容も興味深いものばかりでしたが、最も印象的だったのは慶應義塾大学の坪田一男先生の教育講演でした。一度坪田先生のご講演は拝聴したことがありますが、とても軽快な語りと若々しさに圧倒されました。今回も幸せやごきげんと健康・長寿への影響について、とてもわかりやすくご説明いただきました。幸せに影響を与えるものの最大因子は「睡眠の質と量」「上司の性格」であるということを知り、さらに睡眠の重要性を認識する機会となりました。また、ごきげんな人は健康に良い影響をもたらす、長寿になるという研究結果から、保健医療職である自分がまずごきげんにならないといけないなと改めて感じさせられました。

参加した3日間でいろいろな先生方とお会いして日々の活動を話し合い議論することで、自分の活動を振り返ることができ、「また頑張ろう!」とごきげんが増したとてもいい学会でした。

第86回日本産業衛生学会 (於：松山市)に参加して

京セラ株式会社滋賀蒲生工場
産業医

江口 尚



2013年5月14日から17日の日程で第86回日本産業衛生学会が「産業保健における可能性の追求」というメインテーマで、松山市で開催されました。

メインシンポジウムは、産業保健における可能性の追求「坂の上の雲」シンポ、というテーマで開催をされ、今後の産業保健の方向性について議論がなされました。その中で、東京大学の川上憲人先生が、今後のメンタルヘルス対策は、人事労務や経営企画を担当するノンヘルスセクターの方々との協力が不可欠との話がありました。このテーマについては、川上先生の座長で開催された「職場のメンタルヘルスのグランドデザインを考える」シンポジウムで、より詳しい議論が行われ、シンポジストとして経営学者の立場から、大阪府立大学大学院経済学研究科の北居明先生が、経営学から見た職場のメンタルヘルスと言うことでお話をされました。このようなシンポジウムに、経営学者が登壇することからも、職場のメンタルヘルスには、従来の産業精神保健の枠にとらわれない学際的な研究が必要とされているという印象を強く持ちました。また、個人的には、北居先生は、私が経営学修士号を取得する際の指導教授でもあり、このようなシンポジウムに登壇されて嬉しく思いました。

奨励賞受賞講演では、ともに近畿地方会に所属されている中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センターの竹内靖人先生と京都工場保健会の森口次郎先生の講演がありました。竹内先生は、主に化学物質のばく露モニタリングの方法の開発について、森口先生は、主に中小企業の産業保健活動の向上についてお話をされました。両先生ともに、現場でしっかり仕事をされながら、日々の業務が多忙な中で、論文や原稿を書かれて、情報発信をされて仕事をされている点は、強く見習わなければならないと感じました。

私自身は、弊社で実施した心肺蘇生法・AED講習会の評価について発表をさせていただき、多くの有用なコメントを頂くことができました。

日本産業衛生学会の全国大会や近畿地方会に参加すると、多くの学びや気づきがあります。今後は、今回の学会で、多くの学びや気づきを下さった先生方を見習って、少しずつでも情報発信をしていければと強く思いました。

第18回 近畿産業医部会研修会 開催案内

【研修会趣旨】

産業保健では個別から集団までの多くの健康データを取扱います。集団の健康度や疾病予防に役立てるにはどうすればいいのかわかりません。また、エビデンスに基づく予防とはいかなるものか。個人の健康から集団の健康、そして働きがいのある社会を構築するために必要な疫学とはいかなるものか。研修会では、疫学の基礎と実務応用について紹介いたします。また、公衆衛生的な側面として、がん登録制度の紹介を行います。産業保健における疾病予防対策に有益なものとなるように参加者の皆様と議論を深めたいと思います。

1. 日 時 平成25年9月7日(土) 14:00～17:00
2. 場 所 大阪市立大学医学部学舎 4階大講堂
3. 受講資格 日本医師会認定産業医
4. テーマ・講師

「産業保健におけるエビデンスに基づくアプローチ」

1) 基調講演「産業保健における疫学の基礎」

講師 林 朝茂

(大阪市立大学大学院医学研究科 産業医学)

座長 伊藤 正人

(パナソニック健康保険組合 健康管理センター)

2) シンポジウム「産業保健における健康データの活用～日常業務での取組み～」

シンポジスト

篠原 将貴

(パナソニックオートモーティブ&インダストリアルシステムズ社西門真健康管理室)

『日常の健診データからエビデンス作成まで』

蓮尾 淑江

(NTT西日本 関西健康管理センター)

『日常の健康管理へのエビデンスの活用』

伊藤 ゆり

(大阪府立成人病センターがん予防情報センター)

『地域がん登録の紹介と産業保健とのコラボレーションの可能性』

座長 久保田昌詞

(大阪労災病院 勤労者予防医療センター)

上原新一郎

(大阪市立大学大学院医学研究科 産業医学)

5. 単 位 生涯研修(専門) 3単位
6. 参 加 費 3,000円
7. 受講予定者数 200名
8. 申込方法

「氏名・職種・産業医認定証番号・所属医師会・連絡先住所・電話・FAX番号」を明記の上、『第18回近畿産業医部会研修会実行委員会事務局』まで、

FAX(06-6646-0722)にて受付。なお、受講票は送付いたしません。申込の時点で定員を超えているような場合は参加をお断りする場合があります。

9. お問い合わせ・申込み先

第18回近畿産業医部会研修会実行委員会事務局

大阪市立大学大学院医学研究科 都市医学大講座・産業医学分野

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL: 06-6645-3751 FAX: 06-6646-0722

産業看護部会からのお知らせ

1. 特別研修会のご案内

日 時: 平成25年8月31日(土) 13:00～16:00

会 場: 兵庫大学コンピューター室

テーマ: 統計実習「エクセルを用いた統計演習」

実際にパソコンを使用して、エクセルを用いた基本的な分析手法について学習します

講 師: 久井志保先生

兵庫大学健康科学部看護学科専任講師

受講対象者: 平成24年12月15日又は平成25年7月13日実施の定例研修会受講者

受講料: 日本産業衛生学会会員 1,000円

非学会員 2,000円

*最新情報は日本産業衛生学会ホームページでご確認ください

<http://jsohkink.umin.jp/b-ohn.html>

2. ホームページ更新について

研修・産業看護部会活動・入会方法等必要な情報をできるだけタイムリーにお伝えしたいと思います。「幹事からのメッセージ」コーナーでは、毎月2名の幹事がメッセージ(写真あり)をお届けすることになりました。ぜひご覧になってください。

<http://jsohkink.umin.jp/b-ohn.html>

技術部会からのお知らせ

平成25年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。

- 1) 技術部会の会員になろうと思われる方
 - 2) 技術部会の研究会への意見のある方
 - 3) 技術部会と共同(コラボ)研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
 - 4) その他 技術部会への要望
- などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。

世話役 河合 俊夫

Tkawai@iisha.or.jp



私たちの職場

川崎重工業(株) 西神戸工場・健康推進センター 横田 雅之

川崎重工業株式会社西神戸工場は、昭和43年に油圧機械事業部として発足しました。平成14年に株式会社カワサキプレジジョンマシナリとして分社独立していますが、その後平成22年に再統合されて、従業員数約1,200名（協力会社等を含む）の精密機械カンパニーの基幹工場として現在に至っています。当工場は東経135度日本標準時子午線上の神戸市西区の田園地帯にあり、昼休みには裏山でウォーキングができ、近隣で地元産の野菜なども手に入る、自然に恵まれた環境にあります。

当工場では船舶や建設機械用の油圧ポンプ・モータ、バルブなどの油圧機器をはじめ、各種機械・プラント用の油圧装置、さらに油圧甲板機械、電動油圧舵取機などの応用機械にいたるまで、幅広く生産しています。これらの製造工程においては、振動・引金付工具や研削機械を用いた機械加工、溶接、塗装、熱処理などの有害作業も含まれています。このため、じん肺健診（金属研磨、溶接、炉付着灰掻き落としの作業）、有機溶剤健診（塗装・洗浄作業）、特定化学物質健診（塗装作業）、騒音健診（金属研磨、ボルト・ナットの締め付け・取り外し、エアブロー、多数機械使用の作業）、紫外線健診（溶接作業）などの特殊健診が実施されています。また、特定業務従事者健診についても深夜業のほか、暑熱作業従事者、特殊健診対象者などに対して、範囲を拡げて実施されています。

私たちの職場である健康推進センターは精密機械カンパニーの人事総務部勤労安全課に属し、専属産業医（週4日勤務）1名、保健師2名、衛生管理者である担当管理職1名の計4名で業務にあたっています。健康管理については、健康診断、生活習慣病対策、メンタルヘルスケア、過重労働対策が中心になっています。作業・作業環境管理については、産業医、保健師、衛生管理者1名ずつのメンバーで、週1回職場巡視を行い、各種測定機器を用いて騒音レベル、発熱物体の表面温度、WBGT、照度、粉じん濃度（定性）、有機溶剤濃度（トルエン、キシレン）の変動、作業姿勢や保護具着用状況などのチェックを行っています。

健康診断については特殊健診を中心に健康推進センターで実施しています。以前は特殊健診の有所見者が多い状況でしたが、冷暖房の整備や排気装置の更新などによる作業環境の改善に加えて、産業用ロボットを始めとした設備機械の導入などにより作業負荷が軽減したため、有所見者もこの数年で減少傾向にあります。特に機械化による手作業の減少により、工具使用による上肢障害が減少したほか、じん肺健診や有機溶剤健診などでも有所見者はほとんどありません。

生活習慣病対策としては、一般定期健診の事後措置が中心になっています。おおよそ循環器疾患死亡リス

クの高い順に保健指導を行うよう心がけていますが、低いリスクレベルの従業員まで手が回らないのが現状です。これは近い将来、新しい健康管理システムが構築されることで解決されると期待しています。その他30歳健康教育のほか、フィットネスクラブを利用した35・45歳対象の健康教室など、節目ごとの健康支援も行っています。

メンタルヘルスケアでは長期休業者の減少を主な目的としています。セルフケアではセルフケア検定や節目のセルフケア教育、ラインケアでは管理者メンタルヘルスケア教育（5年に1回の2時間の受講義務）に加えて、新入社員指導員や新任管理職に対するラインケア研修も実施しています。また、メンタルヘルス不調者の職場復帰にあたっては、リハビリ勤務適用時も含めて「産業医面談→復職判定〔就労支援〕会議→本人への就業上の措置の通知」の流れを維持することにより、職場・人事・健康管理の3者連携を保つようしています。また、産業カウンセラーによるカウンセリングも月2回実施し、職場復帰後のフォローなどに役立っています。全社的には大学教授（精神科医）の先生に当社メンタルヘルス専門医を委嘱し、医療スタッフからの相談や研修のほか、当社の「メンタルヘルスケア・マニュアル」の作成にも助言をいただいています。

過重労働対策としては、工場として週1回の定時退社日、残業する従業員に対する残業許可願いの提出を徹底させています。医師の面接指導では、対象者の範囲を拡げ月残業45時間超の従業員をピックアップして疲労蓄積度自己診断チェックリストに記入してもらい、その中から対象者を選定しています。また、夜10時を超えて残業を行っている従業員に対しても、新しいシステムを構築して漏れなく特定業務従事者健診の対象としています。

今後の課題としては、新しい健康管理システムの構築、産業保健スタッフの育成、全社共通のコアとなる産業保健活動の展開などが挙げられます。このためには、私たちと工場人事総務部門および本社保健部門との連携が不可欠と考えています。



会員の声



職域におけるがん検診

大阪大学大学院
医学系研究科環境医学
祖父江友孝

2006年にがん対策基本法が成立し、2007年にがん対策推進基本計画・都道府県がん対策推進計画が策定されて、わが国においても、がん対策を総合的かつ計画的にがん対策を推進する方向性が示された。全体目標として「がんによる死亡者の減少（がんの年齢調整死亡率（75歳未満）を今後10年間に20%減少）」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活質の向上」を掲げ、重点的に取り組むべき課題として、「放射線療法・化学療法の推進、医療従事者の育成」「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」「がん登録の推進」を設定した。

2012年に5年目の見直しを経て、新がん対策推進基本計画が閣議決定された。その中で、重点的に取り組むべき課題に「働く世代や小児へのがん対策の充実」が追加された。がん検診に関しては、取り組むべき施策として、「職域のがん検診についての実態のより正確な分析を行う」「職域のがん検診についても科学的根拠のあるがん検診の実施を促すよう普及啓発を行う」「受診率向上施策については、職域のがん検診との連携など、より効率的・効果的な施策を検討する」

日本産業衛生学会 近畿地方会入会のご挨拶



和歌山県立医科大学
医学部衛生学教室
津野香奈美

今年4月より和歌山県立医科大学医学部衛生学教室に赴任いたしました津野香奈美と申します。3月までは東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野に在籍し、川上憲人教授の元で職場のメンタルヘルスに関連する研究や関連活動に従事して参りました。博士取得後和歌山にご縁を頂き、この地で暮らし始めてから数か月を過ぎたところですが、早くも口から和歌山弁が飛び出し、和歌山の豊かな自然を楽しみながら大学教員としての充実した生活を送っています。東京出身の私を快くそして暖かく受け入れて下さった和歌山県立医科大学の先生方及びスタッフの方々には、この場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。

大学院では主にストレス要因として職場のいじめやハラスメントに着目し、心理的ストレス反応やPTSD症状との関連、発生要因としての上司のリーダーシップ形態（マネジメントスタイル）、役割葛藤・役割の

など、職域のがん検診についての記述が数多く加わった。さらに、個別目標として、「がん検診の受診率については、5年以内に50%を達成することを目標とする。また、健康増進法に基づくがん検診では、年齢制限の上限を設けず、ある一定年齢以上の者を対象としているが、受診率の算定に当たっては、40歳から69歳（子宮頸がんは20歳から69歳）までを対象とする。」と、初めて受診率算定について、年齢の上限を設ける考え方を示した。

「がんによる死亡者の減少」を達成させる方策としては、たばこ対策、がん検診、がん医療の均てん化が3本柱となる。がん検診は、働く世代を中心に展開すべきであるが、現在、対策型検診の中心となっている市町村が行うがん検診は、高齢者に受診者が偏りがちであり、40-50歳台におけるがん検診は、むしろ職域における受診が相当数を占めている。市町村が行うがん検診は、1998年に老人保健事業から一般財源化されて以降（現在は健康増進事業として実施）、国と地方との関係が直結しづらくなっているものの、受診率向上、精度管理等について、国の指針に基づいて実施されている。

職域におけるがん検診については、法的な根拠がないため、こうした点がほとんど考慮されていない。がん検診がターゲットとすべき40-69歳の年齢層での受診率を向上させ、質の担保された検診を普及するためには、職域のがん検診を対策型検診として組織化する体制が望まれる。

曖昧さとの関連等を明らかにして参りました。いじめやハラスメントはコミュニケーションの中で最もネガティブなものであり、その問題について考えることは、職場の人間関係のあり方についても考えさせられ、日々勉強が必要であると共にやりがいを感じております。

現職に赴任してからは、自分自身の研究も継続して進めつつ、衛生学教室の一員として幅広い分野の研究に関わる機会を頂いております。毎週行われる勉強会では、環境衛生、地域保健、介護福祉、学校保健、産業保健、あるいは精神保健に至るまで幅広いテーマの話題提供がなされ、改めて衛生学教室が網羅する範囲の広さを実感します。また当研究室では、現在5週間かけまわっている県全域での調査以外にも、林業従事者を対象にした特殊健診、梅酢を使った研究も実施しており、和歌山ならではの調査研究に関わることができると喜びとやりがいを感じる日々です。地域に密着した研究ができるのは県立大学ならではの思いですので、この貴重な環境を生かせるよう、近畿地方のネットワークも少しずつ広げながら、地域社会に貢献するために精進して参る所存です。近畿地方の皆様とお話できることも楽しみにしております。ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

会員の声



日本の風景、 日本の心にホッと

NTT西日本
関西健康管理センター
福田 莞爾

研究の話も趣味の話も小生のものは面白味の無いものばかりで決して雅趣に富む作には成りえません。今回は日本への憧憬話でご辛抱のほどお願いします。

小生は“桜”の季節や夏の鮎釣りの季節に多くの人が訪れてくれた吉野に生まれ育ちました。山を駆け巡り、柿を取ったり畑でスイカを食べたり、秋には栗拾いが出来ました。川で真っ黒に日焼けをして鮎釣りだけでなく鰻も取ることが出来ました。少しはなれたところには小さい牧場があって今では頂けない濃い味の牛乳を毎日飲みました。桜の木に登ってはその折れない粘りのある枝の弾力を遊び、柿の木に登ってはパキッと折れる危なっかしさを楽しみました。川にはゴロゴロと大小の石が転がっていますが、そこを駆け抜けることが出来て当たり前で捻挫をしたかどうかなんて気にもせず暗くなるまで外で遊びました。学会でいろいろな町を訪れることが出来てその少年時代を思い出させてくれる風景に出会うことがありホッとします。山の緑であったり、瀬戸内の海



『個』を高める

パナソニック健康保険組合
健康開発センター
保健師
中井 栄

2014年のサッカーワールドカップの日本出場が決まり、渋谷で「DJポリス」が活躍するニュースがにぎわっている中、これを書かせていただいています。

私の勤務する健康開発センターは、日本代表とほぼ同じ22人で「健康パナソニック2018」としてグループ全体の健康づくり活動を推進しており、医師、保健師、栄養士、ヘルスケアトレーナー、労働衛生コンサルタント、事務職などさまざまな職種が入り混じった部署です。

当健保の看護職は大半が事業場の健康管理室に勤務しており、私もかつてその中で従業員に直接支援するやりがいや楽しみ（時に苦しみ？）を感じていました。現在は、その会社や健康管理室を支援するという立場です。従業員と直接接することが少なくもどかしさを

であったり、水のきれいな清流など。それから日本人にとって大切な景色の一つに稲穂の垂れる田園風景。お米文化で暮らしてきた日本人にとって大切にしなければならない情景だと思います。食生活の欧米化はもとよりグローバルスタンダードが大手を振ってまかり通ります。看護師職であるドイツ人夫妻が来阪した時に切迫流産となり、日本の産科を受診して医療精度の高さに感動して帰国しました。またスコットランド人が新幹線の秒刻みの運行に“有り得ない”と驚きました。そういった日本にしかない高品質は、日本人の心が作り出すものなのでしょう。伝統的ものづくりにも通じる場所があり、幽玄世界の能舞台や侘・寂を味わえる茶の文化にも静かに息づいていると思います。桜色は日本人にとって癒しの色なのでしょう、きっと。紅葉も純白の雪景色も日本人はそれを味わう格別な感性を持っていると思います。世界画一化の流れに乗るのではなく、今だからこそ日本のよさ、“日本らしさ”を再確認してみたいと思います。日本人のおもてなし精神や日本の技術の精緻さ、そして気品のある“桜”。

このようなことに思いを馳せながら日々感謝してお仕事をさせていただいております。本会におきましてもお役に立てるように精進して参りますので宜しくお願いいたします。

感じることも多いのですが、人事・安全衛生担当者、健康管理室スタッフを通して、その先にいる従業員に健康を届けるつもりで業務にあたっています。

事業の企画、教室実施、資料作成などで他職種と連携をとり、協力しあい、時には意見をぶつけあい、そうして完成し多くの事業場で活用してもらえた時には、かつての健康管理室の少人数勤務では味わえなかった達成感や仲間意識が生まれます。私の職場は、ワールドカップ出場決定の翌日の記者会見で本田選手（大阪出身）が話していたように「チームワークが最大の長所」だと思っているのですが、「それに満足することなくさらに『個』を高めていかなければいけない」という言葉が印象的でした。日々のあわただしさにめまいを起しそうではありますが（加齢のせい？）、自分の能力を高める努力をしていかなければいけないと強く感じました。

さて、こんな私の息抜きはEXILEのライブに行くことです。年甲斐もなく、ライブTシャツを着て、フラッグを振ってはじけています。EXILEファンの方がおられたら、ぜひ京セラドームでお会いしましょう。

第23回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会のご案内

平成25年9月26日(木)～28日(土)名古屋国際会議場にて、メインテーマ「連携、そして発展！産業保健の未来を問う」の下、第23回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会を開催いたします。

主なプログラム

【職場見学】

- ①トヨタ自動車、②JR東海、③日本ガイシ、
- ④新日鐵住金、⑤アサヒビール

【事例検討】

- ①健康診断結果に基づく就業判定の実際
- ②メンタルヘルス復職困難事例への対応

【教育講演】

- ①職場における有害物質による健康障害の防止～最近の法的管理の動向を含めて～
- ②職場のポジティブメンタルヘルス～ワークエンゲイジメントに基づく個人と組織の活性化～

【シンポジウム】

- ①発達障害の特徴と職場での適切な接し方
- ②高齢化と産業保健～いきいきと働き続けるために～
- ③メンタルヘルスとデンタルヘルス
- ④パーソナリティー障害、職場でどう対処する
- ⑤ガンを抱えながらの就労を考える

【メイン企画】

産業保健の未来、3つの課題を問う。

【合同企画】

リレーワークショップ：産業保健職間の連携
四部会合同セミナー：9月13日(金)午後、愛知教育大学で開催。

【ポスター発表】

ホームページからWeb登録して下さい（締め切り：平成25年7月19日(金)正午）。

【日本医師会認定産業医】

実地、更新を含んだ最大17.5単位の取得が可能です。実地単位は事前申し込制です。早めの登録をお願いいたします。

【事前参加登録】

8月5日(水)締切です。ホームページからの登録をお願いします <http://square.umin.ac.jp/ncopn23>

参加費：日本産業衛生学会員 7,000円(事前) 8,000円(当日)。
非学会員 9,000円。

懇親会：9月27日(金)

レストランカスケード会費 5,000円(事前) 6,000円(当日)。

第14回近畿臨床産業医学フォーラム

謹啓 時下、先生方におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第14回近畿臨床産業医学フォーラムを下記の如く開催致したく存じます。

御多用中の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非ともご出席賜りますようご案内申し上げます。
謹白

当番世話人：岡田 邦夫

世話人：岡田 章、武田 和夫
廣部 一彦、藤岡 滋典

日時：平成25年9月4日(水) 18:00～20:30

場所：ホテルグランピア大阪 20階「名庭」
〒530-0001 大阪市北区梅田3丁目1番1号
Tel: 06-6344-1235(代)

参加費：1,000円

申込み：以下の事項を記入の上、第14回近畿臨床産業医学フォーラム事務局までFAX (03-5786-5237) でお申し込み下さい。折返し参加確認書をFAXでお送りいたします。
①ご芳名 ②貴社・医療機関名 ③ご所属・ご役職 ④ご連絡先(電話番号、FAX番号)

締切：8月20日(火) (先着 100名様)

問合せ先：第14回近畿臨床産業医学フォーラム事務局
高木、鹿野 (03-5786-5184)

－ プログラム －

テーマ「熱帯・亜熱帯地域への渡航者と感染症」

- 18:00～ 製品紹介
グラクソ・スミスクライン株式会社
- 18:15～ テーマの主旨説明並びに司会
大阪ガス株式会社 人事部 健康管理センター
統括産業医 岡田 邦夫先生
- 18:20～ I. 基調講演「(仮) 海外渡航と感染症～その対策と予防～」
関西医科大学公衆衛生学講座
主任教授 西山 利正先生

19:05～ II. パネルディスカッション

《パネリスト》

▶ パナソニック健康管理センター 海外医療対策室
室長 辰巳 嘉英先生

「海外渡航者の健康管理」(19:05～)

▶ 関西医科大学公衆衛生学講座・助教、関西医科大学附属滝井病院海外渡航者医療センター・副センター長
三島 伸介先生

「(仮)海外渡航者の予防接種の種類とスケジュール」(19:25～)

《コメンテーター》

▶ 関西医科大学公衆衛生学講座

主任教授 西山 利正先生

*当日は軽食をご用意しております。

*本会におきましては、規則により旅費の負担が出来ません事をご了承下さい。

共催：日本産業衛生学会近畿地方会、グラクソ・スミスクライン(株)



第一回幹事会議事録

日時 2013年6月15日(土) 10:50～12:00
 場所 大阪市立大学医学部学舎18階会議室
 出席 車谷 清田 圓藤 井上 廣部 大脇 伊木
 岡田 北原 木村 島 豊川 鮫島 鈴木
 竹村 中西 森岡 山田 久保田 中島(監事)
 藤岡 宮下 宮上(監事) 植本(前監事)
 中山(第53回近畿産業衛生学会会長)
 欠席 伊藤 河合 丸山 森口
 (敬称略・順不同)

1. 昨年度物故会員の報告(総会議事録参照)
2. 議事(詳細は総会議事録参照)
 - (1) 平成24年度事業報告
 - (2) 平成24年度決算報告
 - (3) 平成24年度監査報告
 - (4) 平成25年度事業計画(案)
 - (5) 平成25年度予算(案)
 - (1) から (5) はいずれも異議なく承認された。
 - (6) 第53回近畿産業衛生学会(京都)の進捗状況
 - (7) 第54回近畿産業衛生学会(大阪)の準備状況
 - (8) その他
 - ①第88回日本産業衛生学会の主催について
 - ②選挙管理委員会委員の選任について
 - ③2015年度近畿産業衛生学会の開催地
慣例の順番に従い兵庫県とし、学会長は兵庫県選出の幹事を中心に選考、第53回近畿産業衛生学会時まで決定する。
 - ④地方会ニュースの発行状況とHP更新状況
 - ⑤産業歯科保健部会監事推薦
5月2日付で、田中和宏会員(田中歯科医院:再任)と服部一秀会員(日本生命保険相互会社健康管理室本店健康管理所・歯科:新任)を推薦した。
 - ⑥本部理事会報告
圓藤理事(本部理事長)から、公益社団法人化により本部のガバナンスが強化されるとの報告があった。
 - ⑦その他
2014年3月14日、15日、21日、22日の産業看護研修会、2015年3月26日(木)～28日(土)の衛生学会の案内があった。

第一回代議員会議事録

日時 2013年6月15日(土) 12:10～13:50
 場所 大阪市立大学医学部学舎4階小講義室1

1. 開会
2. 地方会長の挨拶
3. 昨年度物故会員の報告(総会議事録参照)
4. 議長選出
圓藤陽子会員(関西労災病院)を選出
5. 代議員会の成立
5月15日現在の代議員数118名
出席35名(委任状49名)
現在数の過半数の出席により代議員会は成立(地

方会会則第13条)

6. 議事(詳細は総会議事録参照)
 - (1) 平成24年度事業報告
 - (2) 平成24年度決算報告
 - (3) 平成24年度監査報告
 - (4) 平成25年度事業計画(案)
 - (5) 平成25年度予算(案)
 - (1) から (5) はいずれも異議なく承認された。
 - (6) 第53回近畿産業衛生学会(京都)の進捗状況
 - (7) 第54回近畿産業衛生学会(大阪)の準備状況
 - (8) その他
 - ①第88回日本産業衛生学会の主催について
 - ②選挙管理委員会委員の選任について
 - ③2015年度近畿産業衛生学会の開催地
 - ④地方会ニュースの発行状況とHP更新状況
 - ⑤その他
7. 議長解任
8. 閉会

新入会員

喜多 敏美	喜多歯科医院
福村 智恵	大阪市立大学大学院生活科学研究科
春井 佐知子	シャープ健康保険組合
荻野 博幸	京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻
木野 和子	社会医療法人同仁会
黒崎 宏子	(一財)京都工場保健会
渡邊 はるか	(株)堀場製作所
徳久 恵子	京阪電鉄(株)枚方診療所
三木 秀樹	宇治おうばく病院
池田 美香	京阪ビジネスマネジメント
片山 和子	みずほFG大阪健康管理センター
安達 千恵	みずほFG大阪健康管理センター
土肥 華奈子	みずほFG大阪健康管理センター
則政 美和	山陽特殊製鋼(株)
佐藤 真奈	パナソニック健康保険組合
岡田 夏季	(一財)和歌山健康センター
佐野 恵三子	富士通(株)関西健康推進センター
大塚 創平	新日鐵住金(株)製鋼所
濱元 敦子	毎日新聞大阪本社健康管理室
瀬戸 朋恵	パナソニック(株)AVCネットワークス社健康管理室
山崎 恭子	大和証券総合健康開発センター(大阪医務室)
藤原 実沙子	大阪府警察本部
吉川 卓也	大阪府警察本部警務部健康管理センター
水本 正志	京都工場保健会
松本 比呂子	積水化学工業(株)大阪本社診療所
田中 晴樹	近畿日本鉄道大阪健康管理センター
東 賢一	近畿大学医学部環境医学・行動科学教室
堀谷 希美子	任天堂(株)
宮浦 郁巳	オムロン(株)
下村 英里	トッパングループ健保組合
福田 莞爾	N T T 西日本関西健康管理センター
田所 昌也	兵庫県庁
山口 百合子	和光純薬工業(株)
大村 晃代	東海旅客鉄道(株)健康管理センター新大阪健康管理室
林 麻利子	新日鐵住金(株)
藤井 香与子	(株)高島屋大阪店健康管理室
桑村 裕子	新日鐵住金(株)製鋼所
大城戸 友美	(株)横河ブリッジ

第53回 近畿産業衛生学会開催要項

第53回近畿産業衛生学会長 中山 健夫
(京都大学大学院医学研究科 健康情報学)

- 1. 会場
京都大学医学部芝蘭会館
稲盛ホール・山内ホール
京都大学大学院医学研究科G棟
セミナー室A
- 2. 日時 平成25年11月2日(土) 9:30~17:00
午前・・・一般演題
昼・・・幹事会・代議員会
午後・・・基調講演・シンポジウム
「病気をもち、働く人々の支援に向けて」

基調講演「有病者の就業支援」
立石清一郎
(産業医科大学産業医実務研修センター講師)

シンポジスト
堀松高博
(京都大病院臨床研究総合センター 助教/
腫瘍薬物治療学講座)
八田 告
(八田内科医院院長、近江八幡市立総合医療セ
ンター腎臓センター顧問)
細越寛樹
(畿央大学教育学部現代教育学科助教)
川畑真理
(大日本スクリーン製造株式会社保健師)

- 3. 一般演題申込
筆頭演者は日本産業衛生学会の学会員であることが必要です。学会員でない共同演者の方は、この機会にぜひ入会をご検討下さい。
(1)演題申し込み
演題申し込みは日本産業衛生学会近畿地方会のホームページより「第53回近畿産業衛生学会申込用紙」をダウンロードし、演題名、演者氏名、所属、連絡先住所をご記入いただき、平成25年8月24日(土)までに、第53回近畿産業衛生学会事務局までFAXかEメールでお申し込みください。
FAX: 075-753-9478
Eメール: 53ksanei@hi.med.kyoto-u.ac.jp
(2)発表抄録原稿
演題申し込み後、日本産業衛生学会近畿地方会のホームページより「抄録原稿の作成要項」をダウンロードし、抄録原稿の作成方法に沿って作成してください。原稿は10月1日(火)までに第53回近畿産業衛生学会事務局にEメール添付

- でお送りください(抄録は学会後、PDFとしてホームページで公開させていただきます)。
- (3)発表概要原稿
産業衛生学会誌への掲載用に発表概要(演題名、演者名、所属、本文400字以内)を抄録原稿とともに、10月1日(火)までに第53回事務局までEメール添付でお送りください(Microsoft Wordを推奨します)。
- (4)口演発表者用パワーポイントファイル
「演題発表・抄録原稿の作成要項」4. 発表についての留意事項をご参照ください。

- 4. 近畿産業衛生学会・優秀演題賞と第53回近畿産業衛生学会・若手奨励賞
近畿産業衛生学会・優秀演題賞はすべての演題を対象としています。また第53回近畿産業衛生学会では一般演題の演者のうち大学院生(学部生を含む)、若手研究者(申込時に40歳未満)の方を対象に若手奨励賞を設けます。若手奨励賞の該当者は演題申込用紙に○印をつけてください。皆様の演題申し込みをお待ちしております。
- 5. 参加費
日本産業衛生学会の会員 1,000円
非会員 2,000円、大学院生・学生 1,000円
- 6. その他
(1)基調講演・シンポジウムに関して以下を申請中です。
・日本医師会認定産業医研修の単位認定
・日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定
(2)学会参加、懇親会は事前にお申し込みください。
- 7. 懇親会
11月2日(土)17時30分より芝蘭会館山内ホールにて懇親会を開催致します(参加費4,000円)。
- 8. ダウンロード
抄録、演題申込書、参加申込書の様式は下記よりダウンロード可能です <http://jsohkink.umin.jp/>
- 9. 演題申込・問い合わせ先
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
京都大学大学院医学研究科 健康情報学内
第53回近畿産業衛生学会事務局
TEL: 075-753-9477, FAX: 075-753-9478
Eメール: 53ksanei@hi.med.kyoto-u.med.ac.jp

編集後記

カンボジアで開かれたユネスコで6月22日、「富士山」(山梨県、静岡県)と「三保松原(みほのまつばら)」(静岡市)を世界文化遺産に登録することが決められました。日本の美しさが一つ増えたことは嬉しいことですね。労働衛生では有機溶剤が原因

とする胆管ガンが起こっており、問題となっています。クリーンな作業場を作りましょう。(河合)

編集委員 (50音順)			
河合 俊夫	鈴木 純子	竹村 芳	
中西 一郎 (広報事務局)		藤岡 滋典	
丸山 総一郎	森口 次郎		
山田 誠二 (編集責任)			